

歯科衛生士学科研究会講演抄録

第22回：4月22日（木）

マウス骨髄細胞の分化に 及ぼすNaFの影響

小黑 章 教授

8週齢雄 ddY マウス骨髄細胞の分化に及ぼすフッ素の効果をいくつかのマーカーに基づいて検索した結果、多能性幹細胞から単能性幹細胞、骨髄芽球、前骨髄球、骨髄球、後骨髄球までの早期顆粒球方向への分化が誘導されることが知らされた。それに基づき、飲料水からのフッ素摂取が骨髄細胞の分化に及ぼす影響を知る目的で、100 ppmF (=5.26mM NaF) を10日間与えた6週齢雄 ddY マウス骨髄細胞の分化に及ぼすフッ素の効果を調べたところ、大きな変化を認めなかった。

第23回：5月13日（木） セミナー

痴呆症の介護支援を考える —歯科口腔介護の実施にあたり—

本間 和代 助教授

平成7年現在我が国の痴呆性老人は126万人で、老人に占める割合は6.9%と年々増加の一途をたどり、歯科衛生士が歯科口腔介護を実施していくうえで痴呆性老人の特性、介護者の抱える問題点を理解することが重要になってきた。痴呆には7大法則・1原則があり、介護者のたどる心理的ステップにも4段階あって避けてとおれないことがわかった。痴呆症の症状、原因、接し方等を理解し介護者をどう支援するかを考えながら歯科口腔介護を進めていく必要がある。

Darwin 医学—進化と 人間適応プログラム

福島 祥紘 教授

ヒトの身体は、必らずしも調和がとれているとは云えない矛盾の塊である。しかし一見不調和に見えるものにも、実は意味がある。進化生物学が基礎医学として認識されてきたのは最近のことで、「ダーウィン医学」と命名されている。新しい環境に、ヒトの身体が適応してゆく際の新しい考え方を紹介する。

第24回：5月27日（木）

世界の歯科衛生士教育

石木 哲夫 教授

FDI 資料（1990）に従って、世界各国の歯科衛生士制度の現況を分析した。世界38国のうち、看護婦や歯科助手が業務を行っている9ヶ国を除く29ヶ国で、歯科衛生士制度が設けられていた。日本における看護大学（4年制）を例に、Faculty Developmentの必要性を述べた。

第25回：6月10日（木）

接着のはなし

下河辺 宏功 教授

接着術式の歯科分野への応用は、歯科技術に変革をもたらした医療の向上に大きく貢献した。しかし、接着技術は各ステップごとに詳細な手順が規定されており、その巧拙が治療の予後を大きく左右する。したがって、接着効果を高めるためには、接着の意義、基礎知識を十分理解しておく必要がある。本講義では、歯の硬組織との接着をとりあげ、接着材の物性および被着材（エナメル質、象牙質）の接着形態、表面処理、接着の破壊因子、接着の維持などについて解説した。

第26回：7月15日（木）

口蓋裂の言語治療

大平 章子 教授

口蓋裂やその類似疾患による音声言語障害は、言語聴覚障害の数%にすぎない。主たる症状は、共鳴と構音の問題である。開鼻声、呼気の鼻漏出による子音の歪み、声門破裂音、口蓋化構音、側音化構音等が出現する。外科処置等により早期に良好な鼻咽腔閉鎖が獲得されれば、経過観察、治療訓練等により、ほぼ正常な音声言語を習得することが可能である。言語発達障害等の他の言語聴覚障害を合併する場合は、治療方法や予後が異なる。

第27回：7月29日（木）

歯の漂白—自験例を含めて

市川 伸彦、金城 敬枝（附属診療所歯科医師）

1988年に認可された歯の漂白剤である松風ハイライトを用いた臨床例を報告した。本剤は有髄歯の漂白